

遺伝子検査 精度10倍

東洋紡が試薬

がん早期発見に道

東洋紡は遺伝子検査の精度を従来の10倍以上に高めた試薬を開発した。

血液からがんを早期発見できる可能性が高まる。iPS細胞など再生医療の研究にも役立つとみている。同社は微量な細胞から遺伝子を増幅する試薬では約1割の国内シェアを持つ。新製品をテコにシェアを2割に高め、利益率の高いヘルスケア事業を強化する。

国内の研究施設向けに販売を始めており、今春にも中国や韓国でも売り出す。将来は米国での販売も検討する。

開発した試薬は酵素や添加剤を改良し、精度を高めた。がんや高血圧、肥満になると遺伝子が変わる「エピゲノム」と呼ぶ現象の解析に使う。従来の試薬よりも間違った遺伝子配列を増幅するリスクが軽減でき、精度が大きく上がるといふ。

東洋紡の2016年3月期の連結売上高は3650億円の見通し。試薬などヘルスケア事業は9%程度だが、繊維事業などに比べて採算が高い。